

ため、特別の教育課程に基づく指導(自立活動を行う)が行われます。自立活動とは、特別支援学校の学習指導要領に示されているもので、個々の児童又は生徒が自立をめざし、自分の生活や学習に関する課題を主体的に改善・克服するために必要な基礎的な知識や技能を身につける活動で、将来、社会に出た時に必要な力を養います。「通級による指導の学び」では、学びの対象は、LD、ADHD等の発達障がいや、知的障がいがない自閉症、情緒障がい等で、概ね学年相応の学習に参加できる児童生徒になります。通常学級に在籍しながら、一部、障がい状況に応じた自立活動の特別の指導や特別な支援を受けることができます。例えば、通級による指導の例として、気持ちの切り替えが苦手な児童生徒には、気持ちの整理の仕方を身につける活動を行い、話すことが苦手な児童生徒には、場面に応じた伝え方をロールプレイで学んだりします。通級での指導は、障がいの状況に応じて、月に1時間から週8時間を超えない範囲で行われるとのことでした。

大阪市は、インクルーシブ教育の推進に向けて、可能な限り同じ場で学ぶということに重点を置きすぎたところもあり、場を共有するのみでなく、一人ひとりの教育的ニーズに応えることが重要であることを講座の中でも話されていました。「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」に基づいて、障がい状況に見合った適切な指導・支援が提供できるよう「通常学級」「特別支援学級」「通級による指導」での学びを充実させるとともに、共生社会の実現に向けて、「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育の一層の推進に取り組んでいただきたいと思います。

また、令和6年4月に中之島に施設一体型小中一貫校(新設)が開校する予定であること、同じ時期に、浪速区に不登校特例校(大阪市立心和中学校)も開校予定との情報提供もあり、講座終了後には、多くの保護者の方の質問に先生が数人で対応され、丁寧に答えておられました。保護者の方の熱心な姿を見て、わが子の就学にいろいろ迷い、悩んでいた昔を思い出し、懐かしい気持ちになりました。来月も保護者講座が開催されますので、今回は、大阪市手をつなぐ育成会についてお話しする時間をとってもらえる予定です。

地域交流活動 ポッチャサークルについて
港第二育成園 管理者 杉原 浩司

港育成園・港第二育成園・メープルのある建物は港区波除6丁目にあります。この近辺は工場地帯の中に

あり、町会活動には参加していますが、地域の方に施設のことを知ってもらう機会はあまりありませんでした。しかし、南海トラフ地震など災害の危険もある中で、地域住民との交流はとても重要なものになっています。そこで港区社会福祉協議会さんに地域交流を図れる場を作っていけないかと相談した所、ポッチャサークルへの会場提供を提案されました。

【ポッチャについてルールなどの説明を聞きました】



港区社会福祉協議会さんでは以前より地域ごとの交流活動に尽力されており、特にポッチャサークルが盛んなのですが、波除地区に適した場所が無く、会場提供してもらえたらありがたいということでした。そこで、ポッチャサークルを作る前段階として、7月15日(土)と7月22日(土)の2回に渡って、地域の方に呼び掛けて「ポッチャ体験会」を開催いたしました。

体験会は港区社会福祉協議会の職員の方を中心に、大阪市立体育館のスタッフの方が講師となり港育成園・港第二育成園の食堂で行われました。地域住民の方に加え、港育成園やワークスイけじまの利用者さんなど両日とも20名弱の参加がありました。

【順番にポッチャの体験をしました】



最初はルールも分からず、お互い知らない人もいたので緊張しましたが、講師の先生や社協のスタッフさんの楽しくて分かり易い進行もあり、すぐに打ち解け、ワイワイと楽しい時間を過ごしました。そんな雰囲気の中、高齢の方も障がいがある方も一緒にポッチャを楽しめました。